

委員会視察成果報告書

2026年8月21日

犬山市議会議長
大沢 秀教 様

議員名 増 田 修 治

下記のとおり、視察の成果を報告いたします。

(1) 視察年月日	2026年 8月 19日(水)
(2) 視 察 地	京都府宇治市（鵜飼について）
(3) 視察の種類	常任委員会（建設経済委員会）
(4) 視 察 成 果 (視察地ごとに記入)	宇治川鵜飼事業運営手法と、鵜匠及び船頭の状況、事業の継続をどのように行っているのかを中心に伺ってきました。 鵜匠については、求人を出したことはなく、自ら名乗り出た方を採用し、基本的に鵜匠は別の本業を持っており、副業として働いています。 船頭は、平均年齢が70歳以上となっており、鵜船の船頭については88歳の方が運航しており、高齢化と継承が課題となっています。 鵜・鵜小屋の所有は観光協会となっており、世話や小屋の管理は、観光協会及び、お手伝いボランティアの方で運営されています。 また、宇治市では人工孵化に成功されており、14羽いる中の10羽が人工飼育にて育った鵜で、人工だからこそ、鵜が人間を親と認めてくれることから現在放ち鵜飼へ挑戦をされています。市から観光協会へも助成金を出す形で官民一体となって新たな観光資源とされており、今回残念ながら鵜飼乗船が出来ませんでしたが、鵜飼事業を行う連携都市として鵜飼事業を盛り上げていければと感じました。
(5) 犬 山 市 に 対する提言	鵜は長生きとなっている傾向もあるが、動物福祉の観点からも最後まで面倒を見る覚悟が必要であり、仕入れや孵化のタイミングを考え、鵜の世話が最後までとれる体制作りが大切であると感じました。 また、鵜匠の方が非常に熱心な方でありましたが、鵜飼継続の為にマンパワーだけでなく、組織として仕組化していくことが大切です。仕組としての事業承継に期待したいと思います。

